

精神科看護師の365日

平成25年度の日精看のテーマ「365」にちなみ、全国のさまざまな施設で働く精神科看護師の日常を紹介します。

file.5

管理職ナースの1日

医療法人大和会西毛病院
高橋憲司さん(41歳・精神科看護歴16年)の場合



右の写真は病棟のスタッフと。



精神科看護師になったきっかけ

高 校卒業後に就職先を検討していたところ、看護師として働いていた親類より「これからは男性も看護師というキャリアをめざす時代になるよ」と聞き、看護の仕事に関心を持つようになりました。母の知人が西毛病院に勤めていた縁があり、面接をしていただき、看護補助の仕事から始めました。最初に配属されたのが精神科で、そのままずっと異動を希望することもなく精神科で経験を積んでいます。

現在の仕事内容

8 年ほど前から、療養病棟の師長となりました。男女混合60床の開放病棟のスタッフワークをとりまとめる立場として日々奮闘しています。管理者の立場になったこ

とで、患者さんと直接触れ合う機会が少し減ってしまったことは残念ですが、スタッフのサポートを通じて患者さんやご家族にかかわり

高橋さんの

ある日のスケジュール

8:30	出勤、看護部で情報収集をして病棟へ
8:50	朝礼
9:00	病棟日誌記録など管理業務、スタッフのサポート、診察介助など
12:30	昼食休憩
13:30	午前中に続いて管理業務、スタッフサポートのほか、委員会・カンファレンス出席、実習指導など(日精看の支部会議なども随時)
17:00	退勤(子どもの保育園迎えのため早めの退勤を周囲に理解いただいています)

を保てていると感じています。自分の一言が、病棟全体の方向性や雰囲気や左右すると考えると、身が引き締まる思いです。できるだけ明るく和やかな雰囲気を作り、スタッフにとって相談しやすい師長でありたいと思うので、気軽に声をかけてもらえるような表情や感情表現を心がけています。

また、日精看群馬県支部の事務局長という役職もいただいております。今年は専門学術集会の開催にあたって貴重な経験をさせていただきました。病院の仕事との両立に難しさを感じる時もありますが、日精看の活動を通じて、他施設の取り組みや全国レベルでの精神保健医療福祉の動向を知ることができ、病棟運営にも大いに活かせていると感じています。

やりがいや励みになること

や はり、患者さんの笑顔です。自分がかかわることで患者さんの不安を減らすことができたと実感できる時が一番うれしいです。

今後の目標

病 院全体の課題として、地域貢献を強化していきたいと考えています。そのために勉強になる機会を、個人としても積極的に増やしていこうと思います。